

## 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科

### 教育職員免許法施行規則

(昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二條の六 認定課程を有する大学は、次に掲げる教員の養成の状況についての情報を公表するものとする。

一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生: 道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹: 目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄: 社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

### 人間生活学部食物栄養学科の教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした管理栄養士に成長できる実力を育てるために次の教育目標を掲げている。

生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成

疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成

豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成

人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成

### 学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

#### I. 専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識、②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、③公衆衛生を

理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力、④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

## II. 汎用的学習成果

また、学習支援を行う教員とのコミュニケーションをとおして、①栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解でき、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解できる力、②職業生活や社会生活に必要な数量的スキルや情報リテラシー、③職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションの能力として自己表現力、論理的思考力、問題解決力、他者理解力、④社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。

### 卒業認定・学位授与の方針

学位:学士(栄養学)

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教養科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

学位授与に必要な単位を修得している。

卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度(心構え)や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

### 教育課程編成・実施の方針

コアカリキュラムとサブカリキュラムを編成実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための科目をコアカリキュラムに編成する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」をコアカリキュラムの中に科目指定する。

特に授業においては、科目の専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。

更に、希望者に対して、栄養教諭一種免許状、フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書、社会教育主事任用資格などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

また、汎用的学習成果の獲得を支援する基礎教養科目も編成し、実施する。

### 入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・管理栄養士の仕事を理解している。
- ・卒業後、管理栄養士として職業に就く。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関する事。

【栄養に係る教育に関する科目】

| 科目区分          | 各科目に含めることが必要な事項   | 授業科目     | 単位数 |          | 担当教員   | 履修方法等 |
|---------------|---|----------|-----|----------|--------|-------|
|               |   |          | 必   | 選        |        |       |
| 栄養に係る教育に関する科目 | 栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項   | 学校栄養指導論Ⅰ | 2   |          | 井上恵子講師 |       |
|               | 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項   |          |     |          |        |       |
|               | 食生活に関する歴史的及び文化的事項   |          |     |          |        |       |
|               | 食に関する指導の方法に関する事項  | 学校栄養指導論Ⅱ | 2   | (井上恵子講師) |        |       |
| ●単位数          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む）</li> <li>・教員の免許状取得のための選択科目</li> </ul> |          |     |          | 4単位    | 0単位   |

【教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目】

| 免許状の種類 | 免許法施行規則に定める科目及び単位数 |     | 左記に対応する開設授業科目        |    |        | 担当教員(非):非常勤               |
|--------|--------------------|-----|----------------------|----|--------|---------------------------|
|        | 科目                 | 単位数 | 授業科目                 |    | 単位数    |                           |
|        |                    |     | 必修                   | 選択 |        |                           |
| 栄教一種免  | 日本国憲法              | 2   | 日本国憲法                |    | 2      | 近 勝彦 (非)                  |
|        | 体育                 | 2   | 体育実技<br>体育理論         |    | 1<br>1 | 吉田升助教 (兼担)<br>(吉田升助教)     |
|        | 外国語コミュニケーション       | 2   | 英語Ⅰ<br>英語Ⅱ           |    | 2<br>2 | 濱田佐保子教授 (兼担)<br>(濱田佐保子教授) |
|        | 情報機器の操作            | 2   | 情報リテラシーⅠ<br>情報リテラシーⅡ |    | 2<br>2 | 原田博史教授<br>(原田博史教授)        |

【栄・教育の基礎的理解に関する科目等】

| 免許法施行規則に定める科目区分等 |   | 令和2年度以降    |                   |   |      |  |                     |
|------------------|---|------------|-------------------|---|------|--|---------------------|
|                  |   | 授業科目       | 単位数               |   | 共通開設 | 専任教員                                       | 履修方法                |
| 科目区分             | 各科目に含める必要事項                                   |            | 必                 | 選 | 学校種  | 氏名・職名                                      |                     |
| 教育の基礎的理解に関する科目   | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想                          | 教育原理       | 2                 |   |      | 福野裕美准教授                                    |                     |
|                  | 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)            | 教師論        | 2                 |   |      | (福野裕美准教授)                                  |                     |
|                  | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | 教育制度論      | 1                 |   |      | (福野裕美准教授)                                  |                     |
|                  | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程                        | 教育心理学      | 2                 |   |      | (大賀恵子准教授)                                  |                     |
|                  | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解                    | 特別支援の方法と理解 | 1                 |   |      | (大賀恵子准教授)                                  |                     |
|                  | 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)             | 教育課程論      | 1                 |   |      | (福野裕美准教授)                                  |                     |
|                  | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目            | 道徳の理論及び指導法 | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 | 2 |      |  | (尾崎聡教授)<br>(都田将兵講師) |
|                  | 総合的な学習の時間の指導法                                 |            |                   |   |      |  |                     |
|                  | 特別活動の指導法                                      |            |                   |   |      |  |                     |
|                  | 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)                    | 教育の方法及び技術  | 1                 |   |      | 原田博史教授<br>(都田将兵講師)<br>(井上恵子講師)<br>(原田俊孝講師) |                     |
|                  | 生徒指導の理論及び方法                                   | 生徒指導論      | 2                 |   |      | (浦上博文教授)                                   |                     |

|                                      |                                    |              |                       |  |  |           |  |
|--------------------------------------|------------------------------------|--------------|-----------------------|--|--|-----------|--|
|                                      | 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | 教育相談         | 2                     |  |  | (中西美恵子)   |  |
|                                      | 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法                |              |                       |  |  |           |  |
| 教育実践に関する科目                           | 教育実習                               | 事前・事後指導      | 1                     |  |  | (井上恵子講師)  |  |
|                                      |                                    | 栄養教育実習       | 1                     |  |  | (井上恵子講師)  |  |
|                                      | 学校体験活動                             |              |                       |  |  |           |  |
|                                      | 教職実践演習                             | 教職実践演習(栄養教諭) | 2                     |  |  | (中原真由美講師) |  |
| ●単位数                                 |                                    |              | (新) 20 単位 / (旧) 20 単位 |  |  |           |  |
| ・教員の免許状取得のための必修科目<br>(選択必修科目の単位数を含む) |                                    |              | (新) 0 単位 / (旧) 1 単位   |  |  |           |  |
| ・教員の免許状取得のための選択科目                    |                                    |              |                       |  |  |           |  |

各教員が有する学位及び業績

| 教員名       | 原田博史  | 学位  | 工学修士 | 職名 | 学長 教授 |
|-----------|---|---|------|----|-------|
| 担当科目      | 情報リテラシーⅠ・Ⅱ、教育の技術と方法   |   |      |    |       |
| 専門分野      | 土木構造物の構造解析、情報処理、米国アクレディテーションシステム  |   |      |    |       |
| 最終学歴      | 昭和52年3月   | 法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了  |      |    |       |
| これまでの主な経歴 | 昭和52年4月<br>昭和59年4月<br>昭和59年4月<br>昭和60年8月<br><br>昭和61年4月<br>昭和61年4月<br>昭和62年4月<br>昭和63年4月<br>平成元年4月<br><br>平成2年4月<br>平成10年4月<br><br>平成14年4月<br>平成14年4月<br>令和2年4月 | 会社勤務（昭和59年3月迄）<br>学校法人原田学園主事就任（昭和61年3月末迄）<br>岡山女子短期大学講師（昭和63年3月迄）<br>大学設置審議会の教員組織審査（岡山女子短期大学 講師<br>コンピュータ概論、コンピュータ演習、コンピュータ演習Ⅱ、英文タイプⅡ（ワープロ））<br>学校法人原田学園評議員、理事就任（現在に至る）<br>学校法人原田学園副理事長就任（平成14年4月1日迄）<br>学校法人原田学園法人本部長（平成2年3月31日迄）<br>岡山女子短期大学助教授（平成元年3月31日迄）<br>岡山女子短期大学（平成12年4月岡山短期大学に名称変更）<br>教授（現在に至る）<br>岡山女子短期大学副学長（平成10年3月31日迄）<br>岡山女子短期大学（平成12年4月岡山短期大学に名称変更）<br>学長（現在に至る）<br>岡山学院大学学長、人間生活学部学部長就任（現在に至る）<br>学校法人原田学園理事長就任（現在に至る）<br>岡山学院大学教授（現在に至る）   |      |    |       |
| これまでの主な業績 | 昭和59年4月<br>昭和59年12月<br>昭和61年4月<br>昭和63年9月<br><br>平成2年10月<br>平成6年1月<br>平成6年12月<br>平成8年3月<br>平成8年4月<br><br>平成8年7月<br>平成9年4月<br><br>平成9年9月<br>平成9年10月              | 岡山女子短期大学の全学科（家政学科・食物栄養学科・幼児教育学科）に情報処理教育を導入した。<br>岡山女子短期大学の英語科増設に伴ってカナダブリティッシュコロンビア州立マラスピナ・カレッジ（現バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ）との姉妹校提携を掌った。<br>英語科学生の姉妹校での独自の英語研修を導入した。<br>会計及び教学関係の殆どの事務処理の機械化を導入した。<br>英語科を母体とする専攻科英語秘書専攻を平成元年4月に開設する為、カリキュラムの中に姉妹校との単位互換科目を取り入れ、学生の滞在施設となる本学所有のカナダ研修センター（敷地 892.37 m <sup>2</sup> 、延床面積 182.98 m <sup>2</sup> ）を姉妹校の所在するカナダBC州ナナイモ市に平成元年7月開設した際、購入から改修まで全て掌った。<br>教育の場において情報処理技術者の養成が急務となり、情報処理教育センターを新設した際、設計、設備を全て企画した。<br>岡山女子短期大学開学 40 周年史刊行した際、1 年を掛けて全て編集し刊行した。<br>体育館を新設した際、設計、設備を全て企画した。<br>これまでの通年制の科目履修を改め、学習目標をたて易く、単位修得を弾力化する Semester 制を導入した。<br>全開講授業科目のシラバスの作成を指導し、学生に配付した。<br>全学をあげて大学改革を推進するため、本学独自の大学改革の標語「ニューカレッジ・フロンティアプラン（新・短期大学・最先端・構想）（NCFP）」を掲げ、教育内容・施設設備・学生生活等あらゆる面からの自己点検・評価を開始した。<br>公式ホームページを開設した。<br>平成9年後期 Semester 開講授業科目のうち専任教員担当授業科目全てに授業アンケートを実施した。<br>校舎内の図書館から図書館を新設した際、設計、設備を全て企画した。<br>スター型の学内 LAN（光ケーブルの基幹 1 Km 及び支線 6 Km）を学内全域の敷設を計画し、同時に学術情報センターから JPNIC に接続すると同時に、教員研究室には授業活用の授業計画による採択方式で端末を設 |      |    |       |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
|               | <p>平成 10 年 4 月</p> <p>平成 11 年 1 月</p> <p>平成 12 年 4 月<br/>平成 12 年 5 月</p> <p>平成 12 年 12 月</p> <p>平成 13 年 4 月</p> <p>平成 13 年 9 月<br/>平成 14 年 1 月</p> <p>平成 14 年 4 月</p>   | <p>置した。また、学生のホームルームの全て、図書館、情報処理教育センター及び就職求人コーナー等にも端末を設置し、インターネットの活用を促進した。</p> <p>学内LAN「OWCNET」構築により、情報処理教育科目に限らずネットワーク教育を様々な授業科目に取り入れることとした。</p> <p>授業を受けやすい環境を整備する目的で、全教室・研究室に冷暖房を整備した。</p> <p>専任教員が担当する授業科目の全てに対して、履修学生による学生の授業評価を実施し、平成 12 年度より学内にホームページで公表した。</p> <p>岡山女子短期大学の校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とした。</p> <p>平成 11 年度自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（高校教員による本学視察及び意見交換）を実施した。</p> <p>教育水準の確保並びに教員の教育意識の向上を図るべく、FD（ファカルティディベロップメント）に学科毎に 1 年をかけて取り組み、その内容・成果を全学教育に反映させるため、全学科専任教員参加のFDワークショップを実施した。</p> <p>平成 12 年度実施した自己点検・評価報告書に基づく第三者評価（プログラムレビュー）並びに教員によるFDワークショップの記録全てを平成 12 年度自己点検・評価報告書に掲載して公表し、さらに本学公式ホームページで平成 12 年度自己点検・評価報告書を学内外に公開した。</p> <p>岡山短期大学に図画工作・器楽レッスン棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学の開学に伴い C 棟を全面改修により栄養学実験実習棟を新設した。</p> <p>岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科及び生活情報コミュニケーション学科を開学させた。</p> |
| これまでの主な研究業績   | (著書)  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 短期大学における自己点検・評価の有り方に関する調査研究報告書（共著・日本私立短期大学協会短期大学運営問題委員会）</li> <li>2. 米国 2 年制高等教育機関の認定過程等について（共著・日本私立短期大学協会）</li> <li>3. 高等教育機関認定のハンドブックー米国北西地区大学認定協会ー（共著・日本私立短期大学協会）</li> <li>4. 岡山女子短期大学開学 40 周年史（共著・編集・岡山女子短期大学）</li> <li>5. 私立短期大学の管理運営と活性化（共著・日本私立短期大学協会）</li> </ol> <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多経間ラーメンの位相差を考慮した振動解析（法政大学大学院工学研究科（修士論文））</li> <li>2. 女子短大におけるコンピュータ教育（岡山女子短期大学紀要第 9 号）</li> <li>3. 短期大学における情報教育（短期大学教育・日本私立短期大学協会）</li> <li>4. 短期大学教育の質保証と国際通用性（短期大学教育 73 号・日本私立短期大学協会）</li> <li>5. 米国の 2 年制カレッジと日本の短期大学（短期大学教育 74 号・日本私立短期大学協会）</li> <li>6. 短期大学基準協会の認証評価と教学マネジメント（短期大学教育 75 号・日本私立短期大学協会）</li> </ol>   |
| 学会及び社会における活動等 | <p>土木学会会員（現在に至る）</p> <p>情報処理学会会員（現在に至る）</p> <p>高等教育質保証学会会員（現在に至る） 同 会長（現在に至る）</p> <p>日本私立短期大学協会常任理事（現在に至る）</p> <p>公益社団法人フードスペシャリスト協会理事（現在に至る）</p> <p>一般財団法人短期大学基準協会認証評価委員会委員長（現在に至る）</p> <p>一般財団法人短期大学基準協会副理事長（現在に至る）</p> |   |

| 教員名               | 福野裕美   | 学位   | 修士（教育学） | 職名 | 准教授 |
|-------------------|--|--|---------|----|-----|
| 担当科目              | 教育原理、教育課程総論、社会教育計画、生涯学習概論、教育制度論、教育課程論<br>教師論、生涯学習概論、社会教育行政、保育内容総論、教職実践演習   |  |         |    |     |
| 専門分野              | 教育学  |  |         |    |     |
| 最終学歴              | 平成 23 年 3 月  | 筑波大学大学院博士後期課程人間総合科学研究科教育基礎学専攻単<br>位取得退学  |         |    |     |
| これまでの主な<br>経歴     | 平成 19 年 4 月<br>平成 20 年 8 月<br>平成 21 年 2 月<br><br>平成 22 年 4 月<br>平成 23 年 4 月<br>平成 24 年 4 月<br>平成 30 年 4 月  | ティーチング・アシスタント（筑波大学）（平成 23 年 3 月まで）<br>リサーチ・アシスタント（筑波大学）（平成 20 年 12 月まで）<br>土浦協同病院附属看護専門学校 非常勤講師 担当科目「教育学」（平<br>成 23 年 3 月まで）<br>日本学術振興会特別研究員（DC2）（平成 23 年 3 月まで）<br>岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 助教<br>岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師（平成 30 年 3 月まで）<br>岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授（現在に至る） |         |    |     |
| これまでの主な<br>研究業績   | <p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『要説 教育制度 新訂第二版』</li> <li>『講座 日本の高校教育』</li> <li>『認知的個性 違いが活きる学びと支援』</li> <li>『要説 教育制度 新訂第三版』</li> <li>『現代教育制度改革への提言/上』</li> <li>『MINERVA はじめて学ぶ教職② 教職論』</li> <li>『最新 教育キーワード 155 のキーワードで押さえる教育』<br/>（学術論文）</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>「学業優秀者支援施策におけるアクセス拡大の取り組みに関する一考察—米国カリフォル<br/>ニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムを事例として—」（修士論文）</li> <li>「米国アドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス拡大に関する一考察<br/>—全米レベルの取り組みに焦点をあてて—」</li> <li>「米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス<br/>拡大の取り組みと課題」</li> <li>「米国 Advancement Via Individual Determination プログラムの起源に関する考察」</li> <li>「平成 29 年改訂学習指導要領と階層間格差の問題—教育課程企画特別部会の議論に焦点を<br/>あてて—」</li> <li>米国 AVID プログラムの実態の解明—カリフォルニア州サンディエゴ市のサン・イシドロ<br/>高校を事例として—」（査読付）<br/>（その他）<br/>〈依頼原稿〉</li> <li>「不利な状況にある生徒のための大学進学準備システム—米国の AVID プログラム—」<br/>〈学会発表〉</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>「米国カリフォルニア州における AP プログラムのアクセス拡大施策の特質と課題—州教育<br/>委員会・学区教育委員会・学校の取り組みに着目して—」</li> <li>「米国アドバンスト・プレイスメント（AP）プログラムのアクセス拡大の支援方策—大学<br/>進学準備プログラム（AVID Program）の内容に着目して—」</li> <li>「イラン映画を通して考える教育制度の問題」</li> <li>「米国 AVID プログラムの特質と課題<br/>—カリフォルニア州サンディエゴ地区のサン・イシドロ高校を事例として—」</li> <li>「米国の不利な状況にある生徒を対象とした大学進学支援策の成立過程」</li> </ol> |  |         |    |     |
| 学会及び社会に<br>おける活動等 | 日本教育制度学会<br>大学教育学会<br>筑波大学教育学会<br>日本教育学会、<br>アメリカ教育史研究会<br>日本比較教育学会  |  |         |    |     |



|     |       |     |                            |    |     |
|-----|-------|-----|----------------------------|----|-----|
| 教員名 | 中原眞由美 | 学位等 | 準学士<br>管理栄養士免許<br>栄養教諭一種免許 | 職名 | 准教授 |
|-----|-------|-----|----------------------------|----|-----|

|               |  |   |  |  |  |
|---------------|--|---|--|--|--|
| 担当科目          | 調理学ⅠⅡ、調理学実習ⅠⅡ、フードコーディネーター論、教職実践演習、教養演習ⅠⅡ、食物基礎科学、卒業研究Ⅰ  |   |  |  |  |
| 専門分野          | 調理学、栄養学  |   |  |  |  |
| 最終学歴          | 昭和52年3月  | 島根県立島根女子短期大学 家政科 食物専攻 卒業  |  |  |  |
| これまでの主な経歴     | 昭和52年4月<br>昭和53年9月<br>昭和54年2月<br>昭和54年4月<br>昭和62年4月<br>平成8年4月<br>平成15年4月<br>平成19年4月<br>平成21年4月<br>平成24年4月  | 株式会社 栄養士<br>倉敷市立下津井中学校 臨時栄養士<br>倉敷市立児島中学校 臨時教諭(家庭科)<br>倉敷市立郷内小学校 栄養技師(食数1100)<br>倉敷市立連島南小学校 栄養技師(食数1300)<br>倉敷市立富田小学校 栄養技師(食数450)<br>倉敷市立茶屋町小学校 栄養技師(食数1250)<br>倉敷市立連島東小学校 栄養技師(食数750)<br>倉敷市保健所 生活衛生課 食品監視係長 食品衛生監視員<br>岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師(現在に至る) |  |  |  |
| これまでの主な業績     | <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地場産物利用推進モデル校実践のまとめ</li> <li>2. 学校給食における食物アレルギー対応の手引<br/>(学術論文)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SATシステムを使った献立作成スキルアップの活用法について</li> <li>2. 本学学生およびその家族における、年中行事の認知状況と行事食の認知・経験状況の解析</li> <li>3. 本学学生の家庭における雑煮の実態調査</li> <li>4. 大学生の料理(食品)重量把握学習の取り組みの研究<br/>調理学実習における目測推定トレーニングの効果の検討</li> <li>5. 学生主体で行う調理講習会における学生の能力向上への取り組みと検証</li> <li>6. 大学生の献立作成能力向上への取り組みの検証</li> <li>7. 大学生の生活習慣とストレスの関係について<br/>(その他)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般向け講習会(子育てカレッジ等)における料理教室の開催運営</li> <li>2. 郷土料理の研究・開発(学生の卒業研究の題材)</li> <li>3. 地産地消給食推進指定校に任命される。</li> <li>4. 小学校教育研究会で倉敷東地区の研究授業公開</li> <li>5. 夏期研修会で地産地消の取り組みの講演</li> <li>6. ドライシステム調理場の衛生研究会の実施指定校</li> <li>7. 家庭科の授業への専科教職員とのT.T授業の推進</li> <li>8. 食品衛生責任者の講習会の講師</li> <li>9. 出前講座の講師</li> <li>10. 集団給食栄養士へ現場立ち入り時の衛生指導</li> <li>11 保護者への給食の説明</li> <li>12 食に関する指導の実施</li> <li>13 FM おかやまに出演</li> <li>14 栄養士臨地実習の受入</li> <li>15 給食時間の放送</li> <li>16 ノロウイルスについての講習会(幼児教育)</li> <li>17 食育に係わる行事(イベント)への参加(食育フェア等)</li> </ol> |   |  |  |  |
| 学会及び社会における活動等 | 日本栄養士会会員(現在に至る)<br>岡山県栄養士会会員(現在に至る)<br>調理科学会会員(現在に至る)<br>日本栄養改善学会会員(現在に至る)<br>岡山県栄養士会理事(現在に至る)   |   |  |  |  |

|     |      |     |                            |    |    |
|-----|------|-----|----------------------------|----|----|
| 教員名 | 井上恵子 | 学位等 | 準学士<br>管理栄養士免許<br>栄養教諭一種免許 | 職名 | 講師 |
|-----|------|-----|----------------------------|----|----|

|               |   |  |
|---------------|---|--|
| 担当科目          | 学校栄養指導論ⅠⅡ、事前事後、栄養教育実習、教職実践演習  |  |
| 専門分野          | 栄養学   |  |
| 最終学歴          | 昭和 51 年 3 月   | 岐阜市立女子短期大学 食物栄養学科 卒業   |
| これまでの主な経歴     | 昭和 51 年 4 月<br>昭和 53 年 4 月<br><br>平成 元年 4 月<br>平成 7 年 4 月<br>平成 13 年 4 月<br>平成 19 年 4 月<br>平成 20 年 4 月<br>平成 24 年 4 月<br>平成 26 年 4 月<br><br>平成 28 年 4 月 | (株)東京集団給食技術研究所(名古屋市)勤務(栄養士)<br>倉敷市役所 衛生局福祉部老人福祉課 養護老人ホーム倉敷市光風荘 勤務(栄養士)<br>倉敷市立帯江小学校 勤務(栄養技師)<br>倉敷市立万寿小学校 勤務(栄養技師)<br>倉敷市立天城小学校 勤務(栄養技師)<br>倉敷市立味野小学校 勤務(主任)<br>倉敷市立北学校給食共同調理場 勤務(主任)<br>倉敷市立庄学校給食共同調理場 勤務(主任)(平成 26 年 3 月まで)<br>倉敷市立沙美小学校・倉敷市立富田小学校新規採用学校栄養職員指導員(倉敷市教育委員会非常勤講師)(平成 27 年 3 月まで)<br>岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科特別専任講師(現在に至る) |
| これまでの主な研究業績   | (著書)<br>1.学校給食参考献立集(第 2 2 集)<br>2.学校給食参考献立集(第 2 4 集)<br>3.学校給食参考献立集(第 2 6 集)<br>(報告書)<br>1.児童生徒の食生活日常生活習慣等の調査報告書  |  |
| 学会及び社会における活動等 | 日本栄養改善学会<br>日本栄養士会会長表彰日本栄養士会の発展と国民栄養改善の進展に尽力<br>倉敷市有効者表彰倉敷市自治行政に貢献<br>学校給食関係功労者表彰多年にわたり学校給食の振興に多大な功績があった者   |  |

本学併設の岡山短期大学からの兼担教員

| 教員名         | 浦上博文  | 学位   | 教育学修士 | 職名 | 教授 |
|-------------|---|--|-------|----|----|
| 担当科目        | 保育者基礎演習、幼児と言葉、「幼児と言葉」の指導法、教職実践演習、卒業予備研究 (B)、卒業研究 (A) (B)  |  |       |    |    |
| 専門分野        | 国語  |  |       |    |    |
| 最終学歴        | 昭和 58 年 3 月   | 岡山大学大学院教育学研究科修士課程 (国語教育専攻) 修了                    |       |    |    |
| これまでの主な経歴   | 昭和 52 年 4 月   | 岡山県倉敷市立工業高等学校常勤講師 (国語科担当) (昭和 53 年 3 月まで)        |       |    |    |
|             | 昭和 53 年 4 月   | 広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭 (国語科担当) (昭和 56 年 3 月まで)    |       |    |    |
|             | 昭和 56 年 4 月   | 広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校非常勤講師 (国語科担当) (昭和 57 年 3 月まで) |       |    |    |
|             | 昭和 57 年 4 月   | 広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭 (国語科担当) (平成 16 年 3 月まで)    |       |    |    |
|             | 平成 8 年 4 月  | 広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校国語科主任 (平成 16 年 3 月まで)         |       |    |    |
|             | 平成 13 年 4 月   | 広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教務部副部長 (平成 16 年 3 月まで)        |       |    |    |
|             | 平成 16 年 4 月   | 岡山短期大学幼児教育学科専任助教授 (平成 19 年 3 月まで)                |       |    |    |
|             | 平成 16 年 4 月   | 岡山学院大学人間生活学部非常勤講師 (現在に至る)                        |       |    |    |
|             | 平成 19 年 4 月   | 岡山短期大学幼児教育学科専任教授 (令和 2 年 3 月まで)                  |       |    |    |
|             | 平成 24 年 4 月   | 岡山短期大学幼児教育学科主任教授 (平成 28 年 3 月まで)                 |       |    |    |
|             | 令和 2 年 4 月  | 岡山短期大学幼児教育学科特別専任教授 (現在に至る)                       |       |    |    |
| これまでの主な研究業績 | <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師のための表現分析の手引</li> <li>2. 文章を作る過程の指導 (学術論文) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究①高等学校 2 年生の場合</li> <li>2. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究②高等学校 2 年生の場合</li> </ol> </li> <li>3. 文章の作成過程を指導する教材<br/>昭和 37 年版・47 年版・56 年版中学校教科書 教材の比較</li> <li>4. 作文指導における教材の拡充<br/>中学校 2 年生、意見文作成の場合に即して</li> <li>5. 「文章の作成過程」と「言語表現の基礎」とを重視した指導第 2 学年の場合</li> <li>6. 「持込み詞」による連文表現の基礎指導高等学校 2 年生の場合</li> <li>7. 「説明、記録・報告の文章」の「文章構成の型」に関する調査<br/>昭和 59 年版中学校教科書教材における</li> <li>8. 「読書案内」作成の指導</li> <li>9. 「評論・論説の文章」の「文章構成の型」に関する調査<br/>昭和 59 年版中学校教科書教材における</li> <li>10. 説明の文章を作成する指導</li> <li>11. 文章構成の型を指導するための教材開発</li> <li>12. 中学生の国語表現力に関する研究<br/>文表現における問題点</li> <li>13. 芥川龍之介「羅生門」の教材認識と基準授業案</li> <li>14. 説明の文章を作る行為の指導</li> <li>15. コンピュータを用いた読書指導<br/>「読書案内」作成の実践</li> <li>16. 考えるよう追い込む「発問」の条件<br/>対立する発問によって思考力を育てる</li> <li>17. 説明的な文章の教材認識<br/>中学 2 年「文化というもの」(木村尚三郎) の場合</li> <li>18. 中島敦「山月記」<br/>「のだ」に着目して李徴の内面を読む</li> <li>19. 漢字の習得力を鍛える</li> </ol> |  |       |    |    |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
|                                | <p>計画的・持続的・意欲的</p> <p>20. 文章構成の「型」を重視した論説文作成の指導<br/>四段型文章の場合</p> <p>21. 梶井基次郎「檸檬」の教材認識</p> <p>22. 連携によって情報を創り出す</p> <p>23. 小学校作文教材の変遷 光村図書発行昭和36年版・55年版国語教科書の場合</p> <p>24. 初等・中等教育における作文教材の変遷<br/>昭和37年版・47年版・56年版中学校国語教科書の場合</p> <p>25. 初等・中等教育における作文教材の変遷<br/>表現過程を指導する方法（昭和30年代～50年代）</p> <p>26. 保育者養成課程における国語表現指導<br/>話し言葉（2分間スピーチ）の場合</p> <p>27. 保育者養成課程における国語表現指導<br/>連絡帳の書き方を指導するための教材開発</p> <p>28. 「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に関する漢字調査<br/>保育者養成課程における漢字指導の改善を目指して</p> <p>29. 短期大学生の誤字（平仮名）に関する調査</p> <p>30. 小論文添削指導の事例<br/>接続助詞「し」が出現した文の場合</p> <p>31. 小論文添削指導の事例<br/>接続助詞「たり」が出現した文の場合</p> <p>32. 保育者養成における「言葉遊び」指導力の育成</p> <p>33. 幼稚園教育要領における領域「言葉」の変遷—平成元年第2次改訂から29年第5次改訂まで—</p> |
| <p>学会及び社会<br/>における活動<br/>等</p> | <p>中国四国教育学会<br/>表現学会<br/>岡山国語談話会<br/>岡山大学国語研究会</p>  |

|     |      |    |      |    |    |
|-----|------|----|------|----|----|
| 教員名 | 尾崎 聡 | 学位 | 文学修士 | 職名 | 教授 |
|-----|------|----|------|----|----|

|             |  |   |  |  |  |
|-------------|--|---|--|--|--|
| 担当科目        | ソサエティ 5.0 理解、倉敷学、幼児と人間関係、「幼児と人間関係」の指導法、ライフステージと生活課題、青少年問題と社会、保育実習指導ⅠⅡ、児童文化倫理学、卒業予備研究(B)、卒業研究(A)(B)   |   |  |  |  |
| 専門分野        | 哲学   |   |  |  |  |
| 最終学歴        | 昭和 61 年 3 月  | 岡山大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了  |  |  |  |
| これまでの主な経歴   | 昭和 62 年 11 月<br>平成元年 4 月<br>平成 8 年 4 月<br><br>平成 12 年 4 月<br>平成 13 年 4 月<br>平成 13 年 4 月<br>平成 14 年 4 月<br><br>平成 18 年 4 月<br>平成 19 年 4 月<br><br>平成 24 年 4 月<br>平成 29 年 4 月   | 岡山女子短期大学非常勤講師(平成元年 3 月まで)<br>岡山女子短期大学講師(平成 8 年 3 月まで)<br>岡山女子短期大学(平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更)助教授(平成 14 年 3 月まで)<br>島根県立大学非常勤講師(民俗文化論 担当)(現在に至る)<br>川崎医療短期大学非常勤講師(文化人類学 担当)(現在に至る)<br>倉敷芸術科学大学非常勤講師(生活と文化 担当)(平成 16 年 3 月まで)<br>岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科(平成 16 年 4 月人間情報学科に名称変更)助教授(平成 18 年 3 月まで)<br>岡山学院大学人間生活学部人間情報学科教授(平成 19 年 3 月まで)<br>岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科教授(平成 24 年 3 月まで)<br>岡山短期大学幼児教育学科教授(現在に至る)<br>岡山短期大学幼児教育学科 主任教授(現在に至る) |  |  |  |
| これまでの主な研究業績 | (著書)<br>1. 『建部町史 民俗編』<br>2. 『美作の護法祭』<br>3. 『上齋原村史 民俗編』<br>4. 『牛窓町史 民俗編』<br>5. 『長船町史 民俗編』<br>6. 『祭礼行事 第 3 6 巻 岡山県』<br>7. 『倉敷市史 8 (自然・風土・民俗)』<br>8. 『金光町史 民俗編』<br>9. 『井原市史・民俗編』<br>10. 『金光町史 本編』<br>11. 『奥津町の民俗』<br>12. 『井原市史第 1 巻通史編』<br>13. 『岡山県の会陽の習俗』<br>14. 岡山県の歴史シリーズ 図説倉敷・総社の歴史<br>15. 年中行事大辞典<br>16. 「Made in KOJIMA」第 1 章「児島の歴史」<br>(学術論文)<br>民俗学・人文科学方法論関係<br>1. デルタイの精神科学における「意味(Sinn)」「意義(Bedeutung)」のカテゴリーの成立<br>2. デルタイの精神科学方法論—「理解」概念の発展—<br>3. 人生設計の学の体系構築に向けて—報告その① ライフヒストリーについて—<br>4. デルタイ解釈学の内的成立過程<br>5. 岡山城石垣の構築諸年代<br>6. 日本倫理における神と仏—神仏習合における日本の人間関係—<br>7. 写真で見る岡山の民俗「シン垣と防塁」(付)高屋城付近の鳥瞰図<br>8. 戦乱の世をいかに戦ったか(付)匠ヶ城縄張り図<br>9. 「岡山の中世石塔の特色と民俗学的諸問題」—小米石・豊島石の異形石塔、和泉砂岩の一石五輪、花崗岩の畿内式石塔をめぐって—<br>10. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義(古典倫理から現代倫理へ)」その①比較歴史民族学的視点から生命倫理を考察する<br>11. 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 その②」映像人類学的考察の試み：ミッシェル・フーコー『狂気の歴史』『監獄の誕生』の世界をフランシス・コッポラ版『ドラキュラ』(原作 B・ストーリー)に見出す<br>12. 「歴史的・民俗的景観図作成の試み」—中国山地最奥部の谷筋に見る中世的生活の痕跡(苦 |   |  |  |  |

|                      |   |
|----------------------|---|
|                      | <p>田ダム水没地区調査から) - (付) 苫田ダム水没地区歴史的・民俗的景観図</p> <p>13. 古石塔の立つ光景(古墓地、家系伝承、先祖顕彰) ~歴史的民俗的景観図作成の試み その②~</p> <p>14. 「土居」考 ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その③~</p> <p>15. 備中高松合戦前哨戦における秀吉の陣城「鍛冶屋山城」-伝承と軍記録と遺構-</p> <p>16. 「城山」について ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その④~</p> <p>17. 城郭研究及び軍記研究から見た備中忍山城合戦と合戦場の諸城<br/>- (附) 忍山城に相対する陣城「信倉城」の縄張図下書き(光畑克己氏遺作)</p> <p>18. 土居の景観(土居の伝承と地中から出現した土居) ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑤~</p> <p>岡山学院大学・岡山短期大学紀要</p> <p>19. 井原市の中世山城</p> <p>20. 尼子勢力掃討戦における毛利氏の城郭に関する一考察 ~備中高屋城(岡山県井原市)および高屋城合戦(永禄12年)を例に~</p> <p>21. 備中井原の土居について一言説と実在性- (~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑥~)</p> <p>22. 「歴史的・民俗的景観を記述することの人間存在論的意義について、苫田ダム水没地区を事例に) ~歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑦~」</p> <p>23. 地域アイデンティティ創出と伝説的世界の時空間 ~北条早雲の里の景観~ (歴史的・民俗的景観図作成報告 その①)</p> <p>24. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その①~対象について(改訂の歴史から)</p> <p>25. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その②指導法について (遊びの場面の言葉がけ等から)</p> |
| <p>学会及び社会における活動等</p> | <p>岡山大学哲学・倫理学会会員(現在に至る)</p> <p>岡山民俗学会会員(現在に至る)</p> <p>同学会理事(平成16年4月~現在に至る)、同学会誌 編集委員(平成9年4月~現在に至る)</p> <p>日本宗教民俗学会会員(現在に至る)</p> <p>岡山大学日本思想史研究会会員(現在に至る)</p> <p>日本幼少児健康教育学会会員(現在に至る)</p> <p>倉敷市市民講座において講師として奉仕活動</p> <p>岡山民俗学会理事(現在に至る)</p> <p>倉敷市立天城幼稚園学校評議員(現在に至る)</p> <p>倉敷市文化財保護審議会委員(現在に至る)</p> <p>倉敷市文化財保護審議会会長(現在に至る)</p>  |

|     |       |    |      |    |    |
|-----|-------|----|------|----|----|
| 教員名 | 濱田佐保子 | 学位 | 文学修士 | 職名 | 教授 |
|-----|-------|----|------|----|----|

|             |   |   |  |  |  |
|-------------|---|---|--|--|--|
| 担当科目        | 英語(A)(B)、保育実習指導Ⅰ、教養演習、卒業予備研究(B)、卒業研究(A)(B)  |   |  |  |  |
| 専門分野        | 英語  |   |  |  |  |
| 最終学歴        | 昭和55年3月   | 京都女子大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了   |  |  |  |
| これまでの主な経歴   | 昭和55年4月<br>昭和56年4月<br>昭和59年4月<br>昭和61年7月<br>昭和62年10月<br><br>平成2年4月<br><br>平成2年10月<br>平成4年8月<br><br>平成8年4月<br><br>平成8年8月<br><br>平成13年4月<br><br>平成13年9月<br><br>平成14年4月<br><br>平成25年4月   | <p>光華高等学校非常勤講師(英語)(昭和58年3月まで)</p> <p>追手門学院大学非常勤講師(英語)(平成2年3月まで)</p> <p>京都女子大学非常勤講師(英語)(平成14年3月まで)</p> <p>朝日カルチャーセンター(京都)講師(英会話)(平成2年3月まで)</p> <p>大阪市立大学非常勤講師(英語)(平成2年4月～平成3年3月を除く。平成6年3月まで)</p> <p>聖隷学園聖泉短期大学専任講師(リーディング、英文法、英検英語、英米文学研究、米文学史、教科法英語、LL演習、海外研修、英語基礎セミナー、英語専門セミナー)<br/>(平成8年3月まで)(平成4年4月聖泉短期大学に名称変更)</p> <p>京都大学非常勤講師(英語)(平成14年3月まで)</p> <p>大学設置審議会の教員組織審査京都女子大学家政学部生活造形学科非常勤講師(英語)</p> <p>聖泉短期大学助教授(リーディング、LL演習、海外研修、英語基礎セミナー、英語専門セミナー、メディア研究、英語、Reading/Writing, Test Taking Method, Structure)<br/>(平成13年3月まで)</p> <p>大学設置審議会の教員組織審査聖泉短期大学介護福祉学科兼任、助教授(英語)</p> <p>聖泉短期大学特別任用教育職員助教授(Reading/Writing, Business English, Test Taking Method, 英語専門セミナー)(平成14年3月まで)</p> <p>大学設置・学校法人審議会の教員資格審査岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科教授(英語コミュニケーション演習 Reading/Writing、卒業研究)</p> <p>岡山学院大学教授(英語コミュニケーション演習 Reading/Writing、英語コミュニケーション演習 Listening/Speaking、卒業研究、英語Ⅰ～Ⅵ、比較文化論)(平成25年3月まで)</p> <p>岡山短期大学幼児教育学科 教授</p> |  |  |  |
| これまでの主な研究業績 | <p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Selected Poems of Emily Dickinson</li> <li>2. 『ことば・意味・かたち』</li> <li>3. Dynamic Reading</li> <li>4. 『新・アメリカ研究入門』</li> <li>5. Words to the World</li> <li>6. An Emily Dickinson Encyclopedia</li> <li>7. Different Countries, Different Ways</li> <li>8. Controversial Issues: Write Your Opinion at Your Risk</li> <li>9. Cyber English: The Computer is Mightier than the Sword</li> <li>10. 『未来へのヴィジョン——英米文学の視点から——』</li> <li>11. 『Summer Breeze～ハワイの風～: 観光英語教本』</li> <li>13. 『文学とサイエンス——英米文学の視点から——』</li> <li>14. 『エミリー・ディキンソンの詩の世界』</li> <li>15. 『文学と戦争・英米文学の視点から』</li> <li>16. 『私の好きなエミリー・ディキンソンの詩』</li> <li>17. 『超自然 英米文学の視点から』</li> <li>18. 『比喩 英米文学の視点から』</li> </ol> <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Legal Imagery in Emily Dickinson’s Poems” 査読付</li> <li>2. “Significance of Emily Dickinson’s Fascicles: Her view of death and immortality in fascicles 1-8” 査読付</li> </ol> |   |  |  |  |

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
|                                  | <p>3. “A Vast Expanse at Sunset: Emily Dickinson’ s Poems” 査読付<br/> 4. “Time in Dickinson’ s Poems: Her Strategies for Approaching Eternity” 査読付<br/> 5. “Emily Dickinson’ s circle Imagery: Searching for Heaven” 査読付<br/> 6. “Emily Dickinson’ s ‘Conscious Ears’ ” 査読付<br/> 7. “So slight a film-A Commentary on Emily Dickinson’ s Poetics” 査読付き<br/> 8. “Emily Dickinson’ s Bee Imagery:--Dream and Reality 査読付き</p>   |
| <p>学会及び社会<br/> における活動<br/> 等</p> | <p>日本英文学会会員（昭和55年4月から）<br/> 日本アメリカ文学会会員（昭和55年4月から）<br/> 日本エミリー・ディキンソン学会会員（昭和55年4月から）<br/> （昭和62年4月～平成12年5月：運営委員）（平成12年6月～現在：理事）（平成12年6月～平成14年5月：事務局長）（平成14年6月～平成20年5月：会計）（平成23年6月～現在：会計監査）（平成29年6月～現在：副会長）<br/> 人文学会会員（平成2年4月入会、平成6年3月脱退、平成19年4月再入会）<br/> 大学英語教育学会会員（平成2年4月から）<br/> （平成3年4月～平成6年3月：関西支部会計監査）<br/> （平成7年4月～平成14年3月：関西支部研究企画委員）<br/> （平成16年9月～平成19年9月：中国・四国支部授業学研究委員会委員）<br/> エミリー・ディキンソン国際学会（平成17年4月から Emily Dickinson International Society） 会員</p> |



|     |      |    |                          |    |    |
|-----|------|----|--------------------------|----|----|
| 教員名 | 大賀恵子 | 学位 | 修士（教育学）<br>特別支援学校教諭二種免許状 | 職名 | 教授 |
|-----|------|----|--------------------------|----|----|

|               |   |  |  |  |  |
|---------------|---|--|--|--|--|
| 担当科目          | 教育心理学、特別支援の方法と理解、社会教育演習（教育相談演習）、保育実践演習、保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、発達心理学Ⅰ、幼児理解及び保育相談、子ども家庭支援論、子育て支援、卒業研究(A)、卒業予備研究(B)、卒業研究(B)   |  |  |  |  |
| 専門分野          | 教育心理学（自律訓練法）、教育学、発達心理学  |  |  |  |  |
| 最終学歴          | 平成20年3月<br>平成24年3月  | 岡山大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻修了<br>武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士課程後期満期退学  |  |  |  |
| これまでの主な経歴     | 昭和61年5月<br>昭和61年8月<br>昭和62年10月<br>昭和63年4月<br>平成28年4月<br>平成31年4月<br>令和2年4月   | 倉敷翠松高等学校常勤講師国語（～S61.7）<br>倉敷高等学校常勤講師国語（S62.8）<br>倉敷市立多津美中学校常勤講師 数学（～S63.3）<br>倉敷高等学校教諭 国語（数学）（～H28.3）<br>岡山短期大学講師（～H31.3）<br>岡山短期大学准教授<br>岡山短期大学教授 |  |  |  |
| これまでの主な研究業績   | （著書）<br>1. 「Kotsu 2 くんのだイヤモンド」<br>2. 『『現代保育論』現代保育内容研究シリーズ1』<br>3. 『子ども家庭支援の心理学（保育士を育てる）』<br>4. 『子ども家庭支援論（保育士を育てる）』<br>5. 『子どもの理解と援助（保育士を育てる）』<br>（学術論文等）<br>1. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」<br>2. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」<br>3. 「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」<br>4. 乳幼児の遊びに対する援助が保育者の資質に及ぼす影響—「こどもといっしょに運動会」を通して—<br>5. 保育者をめざす学生の対人援助スキル向上に関する一考察—「相談援助」の授業から—<br>6. 発達段階に応じた教育プログラムの開発と効果に及ぼす影響—教育心理学の領域から—<br>7. 発達障害における早期発見と保育者の支援に関する一考察—事例と課題—<br>8. 「触覚が乳幼児の発達段階に及ぼす影響—心地よさの観点による検証—」 |  |  |  |  |
| 学会及び社会における活動等 | 日本自律訓練学会<br>日本自律訓練学会 第14回池見研究奨励賞 表彰式平成27年10月11日<br>（論文名「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」）<br>日本教育心理学会<br>日本ロールレタリング学会<br>日本教育カウンセリング学会<br>日本交流分析学会<br>日本ストレス学会<br>日本ストレスマネジメント学会<br>日本臨床動作学会   |  |  |  |  |

|     |      |    |         |    |    |
|-----|------|----|---------|----|----|
| 教員名 | 都田修兵 | 学位 | 修士（教育学） | 職名 | 講師 |
|-----|------|----|---------|----|----|

|               |  |   |  |  |  |
|---------------|--|---|--|--|--|
| 担当科目          | 保育者論、教育原理、教育制度論、保育原理Ⅱ事前事後、卒業研究(A)<br>保育原理Ⅰ、教師論、教職実践演習（幼稚園）、卒業予備研究（B）、卒業研究（B）<br>事前・事後、特別活動（教職）、教育課程論及び教育方法・技術論、グローバル研修<br>公務員講座（A）、公務員講座（B）  |   |  |  |  |
| 専門分野          | 教育学  |   |  |  |  |
| 最終学歴          | 平成27年3月  | 岡山大学大学院教育学研究科学校教育学専攻（修士課程）修了                                      |  |  |  |
| これまでの主な経歴     | 平成27年5月  | 国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科ティーチング・アシスタント（TA）（平成28年2月まで）         |  |  |  |
|               | 平成27年9月  | 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「論理的思考」を担当）（平成28年3月まで）                          |  |  |  |
|               | 平成28年4月  | 国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科オリファイド・ティーチング・アシスタント（QTA）（平成29年2月まで） |  |  |  |
|               | 平成28年10月   | 広島県立三次看護専門学校非常勤講師（「教育学」を担当）（平成29年1月まで）                            |  |  |  |
|               | 平成29年4月  | 岡山短期大学幼児教育学科助教  |  |  |  |
|               | 平成30年4月  | 岡山短期大学幼児教育学科講師（現在に至る）   |  |  |  |
| これまでの主な研究業績   | （学術論文等）<br>1. A Study of Acceptance of Emerson's Thought in Japan: Focusing on Tokoku Kitamura's Emerson<br>2. R. W. エマソンの神秘主義思想とその教育的意義<br>3. エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味<br>4. エマソンの超越主義的教育思想のもつ宗教的特質<br>5. R. W. エマソンの初期教育思想に関する研究—牧師の二重性と教育的空間の二重性に着目して—<br>6. 大学教員の授業観に関する研究—教職科目の授業分析とインタビュー分析を通じて—<br>7. 道徳授業の難点を大学における授業でどのように考えるか<br>8. 新幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識」に関する考察<br>（著作）<br>1. 生き方を耕す小学校の道徳授業<br>2. 「先生の先生になる」ための教育プログラムの現状と課題<br>（教育実践記録等）<br>1. 「教職」の社会的意義と「自己信頼」による「教育的相互尊重」<br>2. 教員の職務内容と「チーム学校」の関係に関する研究<br>3. 教育方法及び技術の歴史的展開と教育方法としてのアクティブラーニング<br>4. 年齢別保育指導案の作成と評価—「地蔵鬼」を事例として—<br>5. 保育指導案の書き方と保育現場における評価<br>6. 日本における教育改革と教育制度としての幼児期の教育<br>7. 学校における道徳教育の教育内容・教育方法再考（共著）<br>8. 学校と地域、教育行政の協働による学校安全の構築に関する研究<br>9. 「特別活動」と「総合的学習の時間」の目標と内容の関係<br>10. 自然を意識した道徳授業の理論的基盤に関する研究序説—エマソンの超越主義思想と自然観を手がかりとして— |   |  |  |  |
| 学会及び社会における活動等 | 教育哲学会、教育思想史学会、日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本デュイ学会、日本ペスタロッチー・フレーベル学会、イギリス理想主義学会、中国四国教育学会、くらしき幼児教育ネットワーク   |   |  |  |  |

|     |       |    |         |    |    |
|-----|-------|----|---------|----|----|
| 教員名 | 原田 俊孝 | 学位 | 修士（経営学） | 職名 | 講師 |
|-----|-------|----|---------|----|----|

|               |  |  |
|---------------|--|--|
| 担当科目          | 情報処理基礎、情報処理演習、ICTリテラシー（A）、ICTリテラシー（B）                                      |  |
| 専門分野          | 経営学、情報処理、キャリアデザイン  |  |
| 最終学歴          | 平成23年3月  | 大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻（博士前期課程）   |
| これまでの主な経歴     | 平成23年4月<br>平成25年4月<br>平成30年4月<br>令和2年4月                                    | 岡山短期大学幼児教育学科 助教<br>岡山学院大学・岡山短期大学 学園主事・総務課長（現在に至る）<br>岡山短期大学幼児教育学科 講師（現在に至る）<br>岡山学院大学・岡山短期大学 事務部長（現在に至る） |
| これまでの主な研究業績   | （学術論文等）<br>1. 短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察<br>2. 学校教育における情報機器の活用と課題 |  |
| 学会及び社会における活動等 | 日本キャリアデザイン学会   |  |

|     |      |    |          |    |    |
|-----|------|----|----------|----|----|
| 教員名 | 吉田 升 | 学位 | 博士（健康科学） | 職名 | 助教 |
|-----|------|----|----------|----|----|

|               |  |  |  |  |  |
|---------------|--|--|--|--|--|
| 担当科目          | 幼児と健康、「幼児と健康」の指導法、幼児と表現Ⅰ、「幼児と表現Ⅰ」の指導法、<br>幼児と体育（A）、幼児と体育（B）  |  |  |  |  |
| 専門分野          | 運動生理学、環境生理学、健康科学   |  |  |  |  |
| 最終学歴          | 令和元年9月   | 川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻（博士（健康科学））          |  |  |  |
| これまでの主な経歴     | 令和元年9月   | 川崎医療福祉大学非常勤講師（健康体育実技（スポーツ系）、体育指導法C、健康体育基礎演習） |  |  |  |
|               | 令和元年9月   | 吉備国際大学非常勤講師（生涯スポーツ実習看護・作業、生涯スポーツ実習スポ社B）      |  |  |  |
|               | 令和2年4月   | 岡山短期大学助教                                     |  |  |  |
| これまでの主な研究業績   | （学術論文等）<br>1. Effect of the Rotational Speed of a Long Jump Rope in a Person Turning the Rope on Heart Rate and Oxygen Uptake<br>2. 水泳中の息継ぎの指導法に向けての基礎的研究（1）—呼吸経路の変更に要する時間について—<br>3. グレープフルーツ果汁含有ミネラルウォーター摂取が低山登山中の水分摂取行動および尿中成分に及ぼす影響<br>（教育実践記録等）<br>1. 幼稚園教育要領の領域「健康」における変遷<br>2. 幼稚園教育要領の領域「健康」における指導案の提案<br>3. 幼稚園教育要領の領域「表現」における変遷<br>4. 幼稚園教育要領の領域「表現」における指導案の提案 |  |  |  |  |
| 学会及び社会における活動等 | 日本体力医学会、日本運動生理学会、日本登山医学会、日本幼児体育学会、日本宇宙航空環境医学会、日本体育学会   |  |  |  |  |

その他非常勤講師

近 勝彦 大阪市立大学大学院 教授 法学修士 (広島大学)

中西美恵子 関西福祉大学看護学部看護学科特任教授 修士(教育学)(岡山大学)  
小学校教諭専修免許

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

授業科目ごとの授業の方法及び内容は本学ウェブサイトのシラバス参照 (<https://owc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/03/R2ShokuSyllabus.pdf>)。

4年間の授業計画

| 免許法施行規則に定める科目又は科目区分 |                                    | 授業科目              | 必修 | 選択 | 計  | 1<br>年<br>前<br>期 | 1<br>年<br>後<br>期 | 2<br>年<br>前<br>期 | 2<br>年<br>後<br>期 | 3<br>年<br>前<br>期 | 3<br>年<br>後<br>期 | 4<br>年<br>前<br>期 | 4<br>年<br>後<br>期 |
|---------------------|------------------------------------|-------------------|----|----|----|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 栄養に係る教育に関する科目       |                                    | 学校栄養指導論Ⅰ          | 2  |    | 2  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 学校栄養指導論Ⅱ          | 2  |    | 2  |                  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |                  |
| 小計                  |                                    |                   | 4  | 0  | 4  | 0                | 0                | 0                | 0                | 2                | 2                | 0                | 0                |
| 第6条の6に定める科目         | 日本国憲法                              | 日本国憲法             | 2  |    | 2  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     | 体育                                 | 体育理論              | 1  |    | 1  | 1                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 体育実技              | 1  |    | 1  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     | 外国語コミュニケーション                       | 英語Ⅰ               | 2  |    | 2  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 英語Ⅱ               |    | 2  | 2  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     | 情報機器の操作                            | 情報リテラシーⅠ          | 2  |    | 2  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
| 情報リテラシーⅡ            |                                    |                   | 2  | 2  |    | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
| 小計                  |                                    |                   | 8  | 4  | 12 | 5                | 6                | 2                | 0                | 0                | 0                | 0                | 0                |
| 栄・教育の基礎的理解に関する科目等   | 教育の基礎的理解に関する科目                     | 教育原理              | 2  |    | 2  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 教師論               | 2  |    | 2  |                  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 教育制度論             | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  | 1                |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 教育心理学             | 2  |    | 2  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 特別支援の方法と理解        | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  | 1                |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 教育課程論             | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  | 1                |                  |                  |                  |
|                     | 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳・特別活動・総合的な学習の時間 | 2  |    | 2  |                  |                  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |
|                     |                                    | 教育の方法及び技術         | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  | 1                |                  |                  |                  |
|                     |                                    | 生徒指導論             | 2  |    | 2  |                  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |                  |
|                     |                                    | 教育相談              | 2  |    | 2  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |                  |                  |
|                     | 教育実践に関する科目                         | 事前・事後指導           | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  |                  |                  | 1                |                  |
|                     |                                    | 栄養教育実習            | 1  |    | 1  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  | 1                |
| 教職実践演習（栄養教諭）        |                                    | 2                 |    | 2  |    |                  |                  |                  |                  |                  |                  | 2                |                  |
| 小計                  |                                    |                   | 20 | 0  | 20 | 0                | 0                | 4                | 2                | 6                | 5                | 1                | 2                |
| 合計                  |                                    |                   | 32 | 4  | 36 | 5                | 6                | 6                | 2                | 8                | 7                | 1                | 2                |

◎基礎資格—学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規程により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規程により栄養士の免許を受けていること。

栄養教諭一種免許状を取得しようとする者は栄養士免許取得及び管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎・専門分野のそれぞれの区分における講義・演習・実験又は実習必修単位（82単位）を修得しなければならない。

四 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること。(令和元年度)

|                     |   |    |
|---------------------|---|----|
| 卒業者数 (男・女)          | 9 | 25 |
| 栄養教諭一種免許状取得者数 (男・女) | 0 | 3  |

五 卒業者の教員への就職の状況に関すること。(令和元年度)

教員就職者数 1人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。

栄養教育実習報告会の実施

実習終了後、学科教員及び3・4年次生全員に対して、栄養教育実習報告会を実施している。

その内容は、

- ① 実習学校名、学級数、実習学年
- ② 実習中に気を付けた事項
- ③ 研究授業の指導案について (手直し/経過等)
- ④ その他の授業について (給食時間等)
- ⑤ 研究課題について (テーマ・目的等)
- ⑥ 参観授業について (科目名・学年・児童の様子等)
- ⑦ 実習全体を通しての反省・感想

について実習生一人ひとりが発表用の資料を準備して学会発表形式で発表を行うものである。

実習生は、事後指導で、実習担当教員の指導の下、実習の学習成果を十分に整理して発表に臨み、発表後は学科教員、参加学生から質問を受けることを念頭に、質問に対して適切な応答ができるよう十分な準備をするので、栄養教育実習全般にわたる自己評価と、入職までの課題の確認が一層深まる。